

# サイエンスツアー I

## 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所

作成日 2011/6/20 作成者 総合理学部 濱

### 実習開始まで

サイエンスツアーのねらい「時間割の枠内では実施できない実験や実習を、大学や研究所の専門的な施設・設備を利用して、丸1日を費やして、小グループで実施する」を定めた後は、大学や研究所のWebサイトを閲覧して受け入れ先を探して電子メールで連絡を取り、受け入れ先を決定していきました。以下は、舞鶴水産実験所に初めて送ったメール(2007年4月)の一部です。

[メール引用ここから]

メールタイトル: 「問い合わせ: 高校生の研究ツアーについて」

本文:

フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所 様

(メールの前半部分省略)

貴センターのWebページの中の「地域社会との関わりのページ」に、「地域の高校生物クラブやアマチュア生物同好会の活動に協力したり、小・中・高等学校の学童・生徒のための見学要請や理科教員の研修などにも積極的に協力してきています。」(引用)

と書かれていましたので、関心を抱きメールを送信させていただきました。

本校は、前述のSSH事業のなかで、サイエンスツアーと名づけた活動を計画しています。本ツアーは、本校総合理学科の1年生40名に対し、1日をかけて先端の科学を体験させながら、科学技術に対する関心と理解を深めさせることを狙いとしています。

そのために、研究施設を訪問し、理系の研究者という将来の進路を念頭において、例えばグループに分かれた実習や単純な実験などを行なっていただけるような施設を探しています。

日程は、夏休みか9月以降の土曜日を検討しています。(今のところ、日帰り1日を検討しています)。

[以下略 メール引用ここまで]

このメールの後半には、

- ・このような活動に協力していただくような余地があるか。
- ・仮に協力していただける可能性があるとするれば、どのような内容が可能か。

といった質問をしています。

実施の方向が決まった後は、メールでの打ち合わせ、実施要項作成、生徒・保護者へ案内、旅行業者に見積もりを依頼して科学技術振興機構(JST)に連絡・・・, と続きます。

## 実施時期

当初は、夏休みの宿題や課題テストが終え、生徒が集中しやすい時期をねらって、2007年から2009年までの3回は、9月の第1土曜日に実施しました。しかし、2008年からは、入学後のできるだけ早い時期にこのような体験学習を行いたいと考えていました。さらに、新型インフルエンザの影響によるのか、2009年9月第1土曜日は部活動の試合などによる公認欠席の生徒が多数出たため、2010年度からは5月最終土曜日(1学期中間考査終了後の最初の土曜日)の実施に変更しました。

## 実施にかかる費用

実施にかかる主な費用(2010, 2011)は次の表の通りでした。

この他に、講師(2名)・TA(4~5名)への謝金、教員の出張旅費、雑費等の経費がかかります。

項目	2010	2011
実習船燃料費	6,880	10,500
会場費	0	11,142
バス代(神戸-舞鶴)	116,380	104,720

## 本事業の効果

本校の「SSH研究開発実施報告書」をご覧ください。